

事業運営実践による企業経営スキルの獲得

新田奎次郎*1 山下絵理華*1 西本怜央*1 丸山紘生*1 徳本真央*1

田尻真望*1 石崎寿明*1 ©長谷川光一*2

1*大阪工業大学知的財産学部3年生
2*大阪工業大学知的財産研究科准教授

ゼミ活動の狙い

- 企業経営 * 知的財産に関する実践的スキルと理論の双方を身につけることを目的とする

背景

- 起業したい学生が増加し、学生VB数も増加
- しかし、企業運営に関する基本的知識不足による頓挫も増加

今年度の活動:

文化祭をターゲットとし、事業運営実施

- 4月:ゼミ活動方針の決定
- 5月:出し物の決定
- 9月:ピッチ大会の開催
- 10月:文化祭開催
- 11月:振り返り
- 12月:成果報告会(予定)

指導内容

- 指導スタイル
 - メンタリング
 - ゼミ運営を学生の自主性に任せる
 - 目標を提示

主な講義内容

- スケジュール管理の方法
- 文献調査の方法
- 原価計算、マーケティング、生産管理等

ピッチ大会

- 事業計画を作成し、7名の出資者の前でプレゼンテーションを実施
 - 地域の社長等の審査委員による評価
 - 審査委員が内容を吟味し、出資金を決定する
 - あわせて事業運営に関するコメントを頂戴する
- 結果、7名から78,000円の出資を獲得

成果

- 商品名を商標出願し、登録に井たる
- 3日間で400杯弱の豚汁を販売(1杯300円)
- 味に関する高い顧客満足度を実現
- 販売状況を見据えたJust in Timeの生産管理を実現



学習成果

- 考え抜く力
 - 「ピッチ大会で審査委員よりコメントを受け、利益を出すために細かいところまで考えぬいた」、「商標登録の“漢前豚汁”の漢前の意味を考えつづけて商品に体现させた」
 - 「最終目標から逆算的にこなすべきタスクを設定することを念頭にし、毎回問題点を洗い出し、最終目標にあわせて修正した」
- チームで働く力
 - 各人の向き不向きに合わせて役割を設定
 - 情報共有の方法を工夫
- 専門知識の活用
 - 商品を守るために実際に商標出願を行い、出願分類の検討や手続きを経験
 - 利益を出すための原価・売値設定を詳細に検討